

新型コロナ 感染発生時の対応

～施設種別編～

中予保健所
中予地方局地域福祉課

施設の特性に応じた感染対応

◇新型コロナが発生した場合の対応は・・・

- ・施設の種別
- ・建物の構造、立地
- ・職員の構成
- ・入所者の状態 など

様々な要素により、注意すべきポイントや対応方法が変わります。

⇒施設の特性に応じた感染対応を

介護施設全般①

【特徴】

・重症化リスク 高

コロナの毒性は弱いといっても・・

⇒元々状態の悪い方がコロナに罹って亡くなる

『最後の一滴』死亡事例

⇒療養期間を経てフレイル化する事例も

・感染リスク 高

例) 身体介護・入浴介助 身体的接触

例) 食事介助 マスク無しでの接触

介護施設全般②

【課題】

- ・施設内での感染は感染経路が分かりにくい
⇒気が付くとクラスターという事例も
- ・施設療養対応(入所系施設)
 - ⇒更なる感染拡大の防止
 - ⇒医療提供体制・事業継続体制の構築
 - ※別添『初動対応編』参照
 - ⇒事業継続計画(BCP)の策定

特養(ユニット型個室) 特養・地域密着型特養 ①

【特徴】

- ・ユニット型個室
 - ⇒隔離は比較的容易だが、部屋の移動は困難
- ・医師 △(非常勤嘱託医の場合が多い)
- ・看護師 ○1名以上(1名は常勤)
- ・要介護度3以上、ADLは比較的低い
 - ⇒密接度の高い介護の機会が多く、職員を介した感染拡大リスクが高い
- ・重症化リスク 高
- ・単独型その他、デイやGHを併設する複合施設

特養(ユニット型個室) 特養・地域密着型特養 ②

【課題と対応策】

①重症化リスク

⇒適切な感染対策と健康管理

例) 嘱託医と連携し、医療提供体制を確保

例) 感染拡大防止策の徹底

例) 入所者の小さな変化を見逃さない

②介護サービスの低下

⇒人員の確保

例) 併設のデイ等を休止

例) 法人(グループ)に応援要請

特養(従来型多床室) 特別養護老人ホーム①

【特徴】

- ・従来型多床室
 - ⇒ゾーニングは容易だが感染管理が課題
 - ⇒入所者同士の感染拡大や職員を介した感染拡大リスクが高い
- ・医師 △(非常勤嘱託医の場合が多い)
- ・看護師 ○1名以上(1名は常勤)
- ・要介護度3以上、ADLは比較的低い
- ・重症化リスク 高
- ・単独型その他、デイやGHを併設する複合施設

特養(従来型多床室) 特別養護老人ホーム②

【課題と対応策】

①適切な感染管理

⇒適切な隔離とゾーニング

⇒手指消毒の徹底

⇒PPEの正しい着脱

⇒有症状者の受診・自主検査

⇒職員・入所者の定期的な自主検査

②重症化リスク

⇒②③はユニット型

③介護サービスの低下

個室参照

老健介護老人保健施設①

【特徴】

- ・新規入所や一時帰宅者、空床利用ショート、通りハ利用者などの持ち込みリスクやリハ職・看護職の施設内移動による感染拡大リスク高
- ・医師 ○1名以上(1名は常勤)
- ・看護師 ○入所者の2/21(夜勤1名以上)
- ・要介護者の在宅復帰を目指すリハビリ施設で、
ADLは比較的高い
- ・重症化リスク 低～高
- ・デイケアを併設する複合施設

老健_{介護老人保健施設}②

【課題と対応策】

①感染持込リスク

⇒新規入所者や一時帰宅者の自主検査

⇒老健と通りハの職員固定

②感染拡大リスク

⇒**フロアやユニット毎に担当職員を固定**

(看護職やリハ職が他フロアへの感染拡大の引き金となった例も)

③**適切な感染管理**(特に従来型多床室)

⇒**特養(従来型多床室)参照**

グループホーム 認知症対応型共同生活介護 ①

【特徴】

- ・ユニット型個室
- ・医師 ×
- ・看護師 ×
- ・入所者 **認知症**、ADLは比較的高め
- ・**共同生活の場**
 - ⇒活動的な方が多く、入所者間の感染リスクが高い
- ・単独型の他、特養やデイを併設する複合施設

グループホーム 認知症対応型共同生活介護 ②

【課題と対応策】

① 医療提供体制の構築

⇒施設療養に必要な人員の確保

例) 法人(グループ)に協力要請

例) 医療機関や訪問看護と連携

② ゾーニングによる感染管理

⇒環境変化で混乱する方や動き回る方が

多く、部屋の移動や個室対応が困難

例) 療養者等の移動範囲をこまめに消毒

有料老人ホーム①

【特徴】

- ・個室
⇒隔離は比較的容易だが、部屋の移動は不可
- ・医師 ×
- ・看護師 ○1名以上(介護付きは1名常勤)
(介護付き有料)
- ・要介護度1～5、ADLは様々
(住宅型有料)
- ・ADLは高い
- ・デイや訪問介護を併設する複合施設が多い

有料老人ホーム②

【課題と対応策】

①介護付き&住宅型共通

- ・医療の確保
- ・適切な感染管理

②住宅型有料

- ・併設デイや訪問介護を介した感染持込リスク
 - ⇒感染者発生時はデイを休止
 - ⇒感染防護を徹底し訪問介護を継続

小多機、デイ①

【特徴】

- ・小多機の全てとデイの一部で宿泊サービスあり
⇒宿泊サービスが常態化している場合は、
入所施設と同等の対応が求められる
- ・宿泊サービスは個室
- ・医師 ×
- ・看護師 △1名以上(非常勤可)
- ・ADL 比較的高い
- ・生活の場ではない

小多機、デイ②

【課題と対応策】

①通所は休業

⇒代替サービスの確保

例)訪問に切替できれば・・

例)他の訪問サービス利用

②宿泊サービスを継続する場合

⇒入所施設ではないため、設備や人員が不足

例)法人(グループ)に応援要請

例)医療機関や訪問看護と連携